

名誉市民の上橋菜穂子さんが、7年ぶりに新たな物語を刊行！

図書館員が選ぶこの一冊 53

『^{こしやくん}香君』上・下 文藝春秋
上橋 菜穂子／著

ウマール帝国では、風の香りに気象の移ろいを読み、香使を束ねて香君宮を治め、香りで万象を知る「香君」が、代々奇跡の稲「オアレ稲」を守り、発展を支えてきた。祖父が藩王の座を追われ、父母を亡くし、弟を連れ逃亡中の少女アイシャは、視察官マシュウと出会い、香使として働き始める。人並み外れた嗅覚を持つ彼女は、香りの声分かる能力で「オアレ稲」の秘密を知るが、そこには帝国の運命を左右する事実が潜んでいた。



森羅万象に「声」があり共存している世界が崩れたとき、人はどうすればよいか？主人公が成長とともに自身の能力を生かす覚悟を決めていく姿には称賛しかない。